

しずおかの海と資源を守るための基盤的研究

(予算区分 県単 研究期間 平成29年～)

担当：資源海洋科 吉田 彰

浜名湖分場 吉川康夫

伊豆分場 長谷川雅俊

【研究の背景とねらい】

- ・海(湖)の環境やそこに生息する資源は漁業の基盤です。これらの情報を継続的に収集し解析することで、長期的な変化や異常現象を把握・予測し、有効な対策を立てることが可能になります。
- ・これらの最新情報と過去からの蓄積(データベース)はあらゆる水産研究の基礎となるものです。
- ・本研究では静岡県沿岸および浜名湖の環境情報として、水温分布等の海況情報、栄養塩やプランクトン等の水質情報、藻場群落等の生態系情報を定期的定量的に調査、モニタリングすると共に、それらの予測技術の向上を図ります。
- ・さらに、有用漁業資源についてその漁獲圧力や資源量を継続的に調査解析し、環境予測と合わせて適切な管理技術の開発を目指します。

【これまでに得られた成果】

(平成29年度の成果)

- ・静岡県沿岸の実測水温と人工衛星測定的水温を合成して高精度な関東・東海海況速報を週5回作成発行し、漁業者の日々の操業や県内のマリンレジャーに役立てました。また、海況変化を予測して急潮情報を発表し、定置網の流出被害の防止に努めました。
- ・浜名湖の栄養塩やプランクトン発生状況を毎月監視し、赤潮被害軽減に役立てました。
- ・榛南海域の藻場や磯根資源の回復状況を調査し、漁業者の藻場回復活動に役立てました。
- ・伊豆沿岸のテングサ生育状況を調査し、テングサ資源の適切な管理に役立てました。
- ・県内主要漁獲物の漁獲量や資源状態を調査・公表し、漁獲の適切な管理に役立てました。
- ・集積した水温データを活用し、東海大学、静岡大学、東京大学と共同研究を行いました。

【期待される成果】

- ・関東・東海海況速報の精度向上により、漁場探索の効率化や航行の安全が図られます。
- ・資源動向を把握し漁獲を適切に管理することで、資源の持続的利用が図られます。
- ・蓄積された環境及び生物情報は、サクラエビ等の地域資源を守る研究に活かされます。

【今後の計画】

- ・水温等の海況情報を継続して収集解析し、関東・東海海況速報の定置網漁業に被害をもたらす急潮の予測精度向上を図ります。
- ・浜名湖内の水質と赤潮のモニタリングと情報提供を継続し、赤潮被害低減を図ります。
- ・磯焼けから回復しつつある海南海域の漁情生態系をモニタリングし、情報提供します。
- ・伊豆沿岸のテングサ生育状況調査を継続し、テングサ資源の適切な管理に役立っています。
- ・地域の特産物であるシラス等に混入する他生物の稚仔等の出現状況を監視し、シラス製品の品質向上に役立っています。
- ・県内主要漁獲物の漁獲量や資源状態の調査を継続し、適正な資源管理に役立っています。

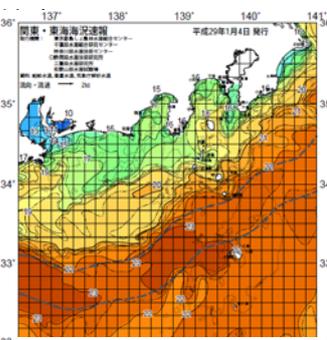


図1 関東・東海海況速報

(作成 平成30年4月)